

リハビリテーション科学ジャーナル  
Journal of Rehabilitation Sciences  
投稿・執筆規定

1. 本誌の名称は「リハビリテーション科学ジャーナル (Journal of Rehabilitation Sciences)」とし、年1度聖隷クリストファー大学学術情報リポジトリ (<https://seirei-univ.repo.nii.ac.jp/>) 上で掲載するものとする。特に申し出のないものに関しては、電子的公開について了承が得られたものとする。
2. 本紙を発行する目的は次のとおりとする。
  - 1) リハビリテーション研究の学術的発展と教育の発展に寄与すること。
  - 2) 学部内に共通の研究発表の場を提供するとともに、学科や学部を越えた学際的共同研究活動を促進すること。
  - 3) 論文発表の機会を提供すること、特に、若手教員および大学院生に論文をまとめる経験の場を提供すること。
  - 4) 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部、およびリハビリテーション科学研究科の研究・教育活動に関して、外部へ情報発信を行なうこと。
3. 掲載される原稿は次のとおりとする。なお、著者はどの論文種目にて投稿するかを投稿時に自己申告すること。
  - 1) 研究論文：論理的かつ明確な構想に基づき、自分自身の研究結果をまとめて、ある結論を与えたもの。内容は、新しい情報、洞察、理論の提示を通して独創性を主張しうるもの。
  - 2) 症例研究：リハビリテーション専門職種において、治療技術・介入、結果等に関して客観的に情報を提示し、その内容が共有・理解でき、価値の高いもの。
  - 3) 総説：各専門領域の解説的評論。過去の研究を概観し、将来的展望を視野においた組織的な論評および総括。
  - 4) 各専門領域の教育・実践等に関する調査・報告
  - 5) 特集（講演録を含む）
  - 6) その他
4. 投稿する論文は次のことを厳守すること。
  - 1) リハビリテーション研究と教育に関するもので他誌へ投稿中、または投稿の予定がないもの。
  - 2) 投稿論文は、ヘルシンキ宣言に基づき、対象者には十分留意し、倫理的な配慮に関する記述がなされていること。厚生労働省の「臨床研究に関する指針」などの厚生労働科学研究に関する指針に従っていること。倫理審査を受け、承認されている場合は承認番号を記載すること。動物実験系の場合は、必ず倫理審査委員会等の承認番号を記載すること。
  - 3) 投稿論文に利益相反関係がある場合には、関係する企業・団体名も明記する。
5. 投稿できる者は次のとおりとする。
  - 1) 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部教員、客員教授。
  - 2) 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部臨床（地）教授、臨床（地）准教授、臨床（地）講師。
  - 3) 聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科大学院生。
  - 4) 1) の共同研究者、その他編集委員会が認めた者。
  - 5) ただし、共著者は上記でなくても構わない。
6. 査読と採否の決定は次のとおり行なう。

投稿原稿の掲載の可否は、編集委員会が依頼した2名の査読者による査読結果を基に、編集委員会で判定（採用、修正後採用、修正後再査読、不採用）を行い、速やかに著者に結果を知らせる。論文の内容により必要に応じて学部外、学外の専門家に査読を依頼する。
7. 原稿の様式は、おおむね次のとおりとする。
  - 1) 用紙サイズはA4とする。日本語論文の場合、1ページは40字×25行とし、英語論

文の場合はダブルスペースとする。原稿には通しページを記入する。

- 2) 原稿には表紙をつけ、論文種目(研究論文、症例研究など)、題目、著者名、所属、Key Words (3 語)をいずれも日本語と英語の両方で記載し、連絡先(E-mail アドレス)を明記しておく。
- 3) 日本語論文の場合は、表紙の次に和文要旨(400 字程度)を付け、最後に英文要旨(250 語程度)を付ける。英語論文の場合は、表紙の次に英文要旨(250 語程度)を付け、最後に和文要旨(400 字程度)を付ける。
- 4) 英文要旨は、題目、著者名、所属、Key Words、要旨の順にダブルスペースで作成する。原則として、著者自身の責任でネイティブ・スピーカーの校正を受ける、校正を受けたことを証明できる書類(証明書など)を提出することとする。
- 5) 研究論文等は原則として図表を含めて刷り上がり 8 ページ以内(13000 字相当、図表 1 枚 400 字相当)とする。図表や写真、段組などのレイアウトは編集委員会に一任する。
- 6) 数字は特別な場合を除き算用数字を用い、度量衡単位系は適宜 MKS 単位系、CGS 単位系の使用を基本とする。

#### 8. 本文中の引用

本文中の引用は米国心理学会(APA)または日本心理学会の方式に従う。

(記載例)

- 本文中に文献を引用する場合、著者名(姓)の直後に刊行年を記載する。  
Miyano (2014)は …。
- 自著の引用も著者名(姓)の直後に刊行年とする。
- 共著(著者 2 名)の場合は、引用のたびに両著者名を書く。ただし、英語文献では、“&”

を用いる。

「伊東・越智(2014)は…」 「…している(伊東・越智, 2014)。」

「Shimizu & Haryu (2014)によれば…」

- 共著(著者が 3-5 名)の場合は、初出の際には全著者名を書く。2 度目以後は、第 1 著者名を書き、第 2 著者以降は日本語文献では「他」、英語文献では“et al.”と略記する。

日本語文献の初出

「堀毛・上淵・鈴木(2014)からは…」 「…であろう(堀毛・上淵・鈴木, 2014)。」

日本語文献の 2 度目以後

「堀毛他(2014)が…」, 「…になる(堀毛他, 2014)。」

英語文献の初出

「Takahashi, Ikegami, & Imura (2014)において…」, 「…する(Takahashi, Ikegami, & Imura, 2014)。」

英語文献の 2 度目以後

「Takahashi et al. (2014)を用いて…」, 「…だろう(Takahashi et al., 2014)。」

- 共著(著者が 6 名以上)の場合は、初出の際も 2 度目以後も、第 1 著者名以外は「他」, “et al.”と略記する。

日本語文献

「浦他(2014)については…」, 「…した(浦他, 2014)。」

英語文献

「Oshio et al. (2014)に基づく…」, 「…論じた(Oshio et al., 2014)。」

- 翻訳書の引用

翻訳書を引用する場合は、原著者名とその刊行年を最初に引用し、そのあとに翻訳書の翻訳者名とその刊行年を括弧に入れる。

「Kawahara (2013, 北村・越川訳 2014)では…」

- 文献引用の順序

本文中の同一箇所でも複数の文献を引用する  
ときには、文末の同じ括弧内に著者名のアル  
ファベット順にセミコロン(;)で区切り、  
また同一著者については単著を優先し、刊  
行年順に並べてそれらをカンマ(,)で区切  
り示す。

「…となる(坂田, 2013; Sakata & Sakamoto,  
2011; 下野他, 2012)。」

本文中の引用については、(記載例)に従うが、  
体裁に一貫性があり、論文・引用文献を理解する  
にあたり、査読者が問題無いと判断すれば異なる  
方式であっても受理する。

#### 9. 文献の書き方

引用文献は、本文のあとにまとめて記載する。  
雑誌の場合は、著者名、(西暦年号)、論文名、雑  
誌名、巻(号)、頁、の順に記載する。英語文献で  
は、雑誌名と巻(号)はイタリック体とする。書  
籍の場合は、著者名、刊行年(西暦年号)、書籍  
名、初版以外は版数、出版地: 出版社を書く。英  
語文献では、書籍名はイタリック体とする。文  
献の記載法は米国心理学会(APA)または日本心  
理学会の方式に従う。

(記載例)

##### ● 雑誌

服部四郎 (1976). 上代日本語の母音体系と母  
音調和. 言語, 5(6), pp. 2-14.

Haryu, E., & Kajikawa, S. (2012). Are  
higher-frequency sounds brighter in  
color and smaller in size? Auditory-  
visual correspondences in 10-month-old  
infants. *Infant Behavior and  
Development*, 35, 727-732.

※共著(著者が7名以下) すべての著者を書  
き、日本語文献の場合は、各著者の間に中黒  
(・)を入れて結ぶ、英語文献の場合は最後  
の著者の前にカンマ(,)と&をおく.andと  
綴らぬこと。

大平 英樹・小西 啓史 (2014).

Omi, Y., Katayama, J., & Kanazawa, S.  
(2013).

##### ● 雑誌著者8名以上

坂上 貴之・下斗米 淳・服部 雅史・三浦 佳世・  
村上 郁也・やまだ ようこ…鈴木 直人(2014).  
小児検査の問題点. 小児発達医学, 3, 21-37.

Arca, M., Papachristoforou, A., Mougél,  
F., Rortais, A., Monceau, K., Bonnard,  
O., … Arnold, G. (2014). Defensive  
behaviour of *Apis mellifera* against  
*Vespa velutina* in France: Testing  
whether European honeybees can develop  
an effective collective defence against  
a new predator. *Behavioural Processes*,  
106, 122-129. doi:

10.1016/j.beproc.2014.05.002

※共著(著者が8名以上)の場合には、第1か  
ら第6著者まで書き、途中の著者は「…」で  
省略表記し、最後の著者を書く。

##### ● 書籍

阿部雅子 (2004). 構音障害の臨床 基礎知識と  
実践マニュアル. 東京: 金原出版.

Johnson, M. H., & Morton, J. (1991). *Biology  
and cognitive development: The case of  
face recognition*. Oxford, England: Basil  
Blackwell.

##### ● 特定章

角辻 豊 (1978). 情動の表出. 金子 仁郎・菱川  
泰夫・志水 彰 (編), 精神生理学 IV 情動の  
生理学 (pp. 196-209). 東京: 金原出版

Baker, F. M., & Lightfoot, O. B. (1993).  
Psychiatric care of ethnic elders. In A.  
C. Gaw (Ed.), *Culture, ethnicity, and  
mental illness* (pp. 517-552). Washington,  
DC: American Psychiatric Press.

##### ● 翻訳書

de Saussure, F. (1966). *Course in general*

*linguistics* (R. Harris, Trans.). New York: McGraw Hill. (Original work published 1916)

- 大会発表

迫田久美子・松見法男 (2005) . 日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) - 音読練習と の比較調査からわかること -. 2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集, 241-242.

Farroni, T., Johnson, M. H., Menon, E., Zulian, L., Faraguna, D., & Csibra, G. (2005). Newborns' preference for face-relevant stimuli: Effects of contrast polarity. *Proceeding of the National Academy of Sciences of the USA*, 102(47), 17245-17250.

- Online 資料

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課. (2008). 障害児支援の見直しに関する検討会報告書, 検索日 2000 年 10 月 23 日, <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/s0722-5.html>

Roediger, H. L. (2012). Psychology' s woes and a partial cure: The value of replication. *APS Observer*, 25. Retrieved from <http://www.psychologicalscience.org/index.php/publications/observer/2012/february-12/psychologys-woes-and-a-partial-cure-the-value-of-replication.html>

- 早期公開

三浦 麻子・小森政嗣・松村 真宏・前田 和甫 (2015). 東日本大震災時のネガティブ感情反応表出-大規模データによる検討-心理学研究 Advance online publication. <https://doi.org/10.4992/ipsy.86.13076>

Maehara, Y., & Umeda, S. (2013). Reasoning bias for the recall of one' s own beliefs in a Smarties task for adults. *Japanese*

*Psychological Research*. Advance online publication. Retrieved from <https://doi.org/10.1111/jpr.12009>

- in press

Tsukiura, T., Shigemune, Y., Nouchi, R., Kambara, T., & Kawashima, R. (in press). Insular and hippocampal contributions to remembering people with an impression of bad personality. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*. Retrieved from [https://www.researchgate.net/publication/221847098\\_Insular\\_and\\_hippocampal\\_contributions\\_to\\_remembering\\_people\\_with\\_an\\_impression\\_of\\_bad\\_personality](https://www.researchgate.net/publication/221847098_Insular_and_hippocampal_contributions_to_remembering_people_with_an_impression_of_bad_personality)

文献の書き方については, (記載例) に従うが, 体裁に一貫性があり, 論文・引用文献を理解するにあたり, 査読者が問題無いと判断すれば異なる方式であっても受理する.

#### 10. 投稿の方法 (原稿提出の方法)

- 1) 原稿の提出期日は, 編集委員会で決定して通知する.
- 2) 投稿原稿は, 提出期限までに編集委員会へ提出する. 掲載時期については, 編集委員 (kiyou@seirei.ac.jp) に問い合わせること.
- 3) 投稿時には, 7. ~ 9. の様式に則った MS-Word ファイル (表紙, 和文要旨と英文要旨, 本文と文献) と, 図表の PDF ファイルを, 電子メールで編集委員会 (kiyou@seirei.ac.jp) まで提出する.

#### 11. 著者校正は原則として初校のみとする.

#### 12. 著作物の複製権および公衆送信権

掲載された論文の著作権 (著作人格権, 著作財産権) は著者に帰属する. 著者は聖隷クリストファー大学リハビリテーション科学ジャーナルへ, 同機関が公益事業に役立てるために行う掲載論文の複写・複製・翻訳・翻案・要約および第三者

への転載許諾の権利を譲渡する。

13. その他

不明な点は，編集委員会  
(kiyou@seirei.ac.jp)にお問合せください。

2021 年 4 月改訂

2021 年 4 月実行